

「三宮クロススクエア」交通社会実験について

1. 概要

(1) 三宮クロススクエアについて

三宮の駅前には神戸の玄関口であるが、駅前広場が十分に確保されていないため、人のための空間が少なく、また、駅とまちが幹線道路で分断されていることから、駅とまちのつながりが非常に弱い。これらの課題を解決し、神戸の都心の特徴を活かしていくために、車道を人のための空間に段階的に転換することで、歩行者の回遊性を高め、にぎわいを生み出し、神戸の玄関口にふさわしい空間を創出するものである。

(2) 社会実験の目的

「三宮クロススクエア」の第1段階（フェーズ1）の車線数を再現し、車線数の減少による交通流の影響調査を行うことで、整備に向けた設計に反映させる。

(3) 実施期間

令和元年7月2日（火）～7月31日（水） 30日間

(4) 実施場所

中央幹線 三宮交差点～中央区役所前交差点 間 （約400m）

(5) 実施主体

国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所

神戸市 都心再整備本部 都心再整備部 都心三宮再整備課

2. 内容

(1) 第1段階（フェーズ1）の車線数を再現

- ・現況10車線→6車線に減少（東行き3→2車線、西行き7→4車線）

(2) 横断歩道設置検討のための信号現示変更・信号機増灯

- ・そごう前横断歩道の設置を想定し、信号現示サイクルを変更
- ・信号灯器の増灯（直進矢印・左折矢印）

(3) 調査

- ・交通量、渋滞発生状況（13交差点）
 - ・旅行速度（東西南北の4路線）
 - ・アンケート調査（バス事業者や市民向け）
 - ・ヒアリング調査（消防、トラック協会、タクシー協会など）
- 実験の事前、直後、終盤の平日休日計6回
(6/16、6/18) (7/4、7/7) (7/21、7/25)

3. 実験結果（速報値より）

(1) 実験箇所周辺の状況と課題

《状況》

①平日朝ピーク（7:00～9:20）

- ・北方向（南行き）について、実験開始直後に信号サイクルの変更による渋滞が発生したが、実験終盤は実験前と概ね大きな差は見られなかった。
- ・西方向（東行き）については調査時期に関わらず混雑する傾向が見られた。
- ・その他の方向については、概ね実験前と大きな差は見られなかった。

②平日夕ピーク（17:00～18:50）

- ・東方向（西行き）及び南方向（北行き）について、実験開始直後に車線規制による渋滞が発生したほか、時間帯によっては混雑が発生した。

- ・西方向（東行き）については調査時期に関わらず混雑する傾向が見られた。
- ・また、北方向（南行き）については実験開始直後には混雑していたが、終盤になるにつれて落ち着く傾向が見られた。

③土日祝日ピーク（14:00～17:00）

- ・14日は交通規制が重なったため、大きく混雑が発生したが、その他については実験前と概ね大きな差は見られなかった。

《主な課題》

- ・三宮交差点の北側からの流入部
直進するバスと左折する一般車との交錯による危険な状況や混雑が発生し、南北交通に影響を与えることが課題として確認されたことから、今後、車線構成及び路線バスのバス停再編や形状等について検討を行い、設計に反映していく。
- ・三宮交差点の西側からの流入部
西方向（東行き）の実験期間中の混雑はバスの停車による交通障害（2車線中の1車線を塞ぐ）が原因と考えられることから、新たなバスターミナルへの集約を推進する。
- ・三宮交差点の東側からの流入部
時間帯によっては混雑が発生していたことから、今後更なる迂回誘導などの対策を検討する。

（2）交通量の変化

- ・山手幹線、中央幹線、浜手幹線（国道2号）の断面交通量を比較した結果、事前に比べ、実験中は中央幹線の交通量が減少し、山手幹線及び浜手幹線の交通量が増加したことから、外周道路へ迂回する傾向が確認された。

4. 今後の予定

- ・今後、周辺道路の渋滞長調査や旅行速度調査の結果を解析するとともに、関係事業者等へのアンケート調査やヒアリングなどを行い、兵庫県警とも協議を行いながら、課題解決に向けた検討を進めていく。